地理学会ニュース　2021年度　第2号

法政大学地理学会　2021年9月30日発行

法政大学地理学会2021年度の第1回例会（日帰り巡検）についてのお知らせ

テーマ：東京大都市圏郊外地域の現状をみる
日　　程：2021年11月14日（日）
方　　式：対面形式
集合場所：京王電鉄・小田急電鉄永山駅改札
集合時間：10：00
解散場所：JR青梅線羽村駅or福生駅（予定）
解散時間：16：00（予定）
案 内 者：小原丈明（集会委員）ほか
参加費用：実費（交通費や昼食代は各自で支払っていただきます）
定　　員：20名（先着順）
申し込み：2021年11月1日（月）（必着）までに，集会委員会宛にメール（shukai@chiri.info）あるいは葉書（〒102-8160　東京都千代田区富士見 2-17-1　法政大学文学部地理学教室内法政大学地理学会宛）にて申し込みのこと。なお，申し込みの際の書式は任意ですが，必ず氏名，住所，メールアドレスを記載してください。
参加条件：コロナワクチン2回接種済み，あるいはPCR検査陰性（巡検当日の72時間以内に実施）であること。参加者は巡検当日に上記を証明する資料を示してください。これらの資料がない場合や発熱（37.5℃以上）がある場合は，参加をお断りすることになります。
主な見学場所（予定）：多摩ニュータウン（団地の建て替え，商業集積），立川米軍基地跡地，村山団地，福生ベースサイドストリートなど。
趣旨説明：今年度の第1回例会（巡検）は東京大都市圏の郊外地域を巡りたいと思います。高度経済成長期に急速に拡大し，多くのニュータウンや住宅地が開発された大都市圏郊外地域では，開発から半世紀近くを迎え，また人口減少社会となった現在においては，空き地・空き家の増加，建物の老朽化，住民の減少や高齢化などさまざまな問題が噴出している状況にあります。また，工場などの大規模施設の閉鎖や転出なども郊外地域の地域社会に影響を及ぼしています。

一方，立川のように大規模施設の移転後に新たな商業集積が形成された地域や，福生のように特徴的な街並みが形成されてきた場所もあります。

このように，大きく変化してきた，また，変化しつつある今日の東京大都市圏郊外地域を巡ることで，都市および都市圏の動態について学び，考えてみたいと思います。
注意事項：コロナ禍の昨年度は巡検の実施を見合わせました。現在もコロナ禍である状況に変わりありませんが，ワクチン接種が進み，コロナウイルスへの感染予防の理解も浸透している状況を鑑み，今年度は対面形式での巡検を実施したいと思います。もちろん，参加者はマスクの着用やアルコール消毒の徹底など，コロナウイルスの感染予防に十分に留意するとともに，上述の「参加条件」を必ず満たしてください。

巡検当日は多くの距離を歩くことになるので，必ず歩き易い靴や服装でご参加ください。なお，上記の見学場所は現時点での予定であり，今後変更の可能性があります。また，実際の見学先によっては，集合場所や解散場所を変更することもあります。

巡検の詳細は，改めて参加者にメールにてお知らせするので，参加を申し込む際には，必ずメールアドレス（可能であれば，添付ファイルの受信可能なメールアドレス）を記入してください。

（集会委員会）

法政大学地理学会 2021 年度の第 2 回例会（シンポジウム）についてのお知らせ

テーマ：仕事における「地理学」の活かし方
日　　程：2020 年 12 月 12 日（日）
時　　間：13：00～16：30（予定）
方　　式：Zoom によるオンライン形式
内　　容：講演およびパネルディスカッション（講演者（4 名程度）は現在打診中です）。

プログラムの詳細は現在検討・調整中です。プログラムの詳細が決定次第，学会のウェブサイトと Facebook に掲載します。また，当日の Zoom のミーティングに関する ID や PW は，会員情報として登録されたメールアドレス宛にお送りします。

趣旨説明：今年度の定期総会時における特別講演の中で，講演者の小山伸樹会員には東京都庁でのさまざまなご公務において地理学の知識や技能，考え方・思考を如何にして活用されてきたのかお話しいただきました。また，ご講演後の質疑応答に際しても，社会における地理学の有効性や不十分さについての議論が展開されました。

以上を鑑み，いま一度，社会において，とりわけさまざまな仕事・業務において地理学の知識や技能，考え方・思考がどのように活かされているのか，あるいは活かされていないのかについて考えてみたいと思い，今回のシンポジウムを企画しました。講演者ならびに参加者とのディスカッションを通じて，地理学の可能性や課題を再確認できればと思います。

備　　考：第 1 回例会（日帰り巡検）と同様に，この第 2 回例会も対面形式で実施することを検討してきましたが，法政大学内で会場（大規模教室）を確保するのが難しく，また，コロナウイルスの感染状況によっては開催方式を急遽変更しなければならない事態が予想されることから，今回のシンポジウムにおいては昨年度の例会（発表大会）や今年度の総会・特別講演・一般研究発表と同様に，Zoom によるオンライン形式で開催します。

本企画においては，さまざまな業種や職種の方にご講演いただくことが望ましいため，講演者についてはそのような観点から現在打診中です。上記の「内容」にあるように，講演者やプログラムの詳細が決まり次第，学会のウェブサイトや Facebook にてお知らせします。

また，例会当日の Zoom ミーティングに関する ID や PW の情報については，セキュリティの関係上，ウェブサイトや Facebook には掲載せず，会員情報に登録されたメールアドレス宛にメールをお送りします。したがって，メールアドレスの情報を未登録の方は集会委員会のメールアドレス宛（shukai@chiri.info）に，その情報をお送りください。なお，例会の Zoom ミーティングに関する情報は開催の 1 週間ほど前にメールにてご連絡します。

（集会委員会）

＜地理学研究の窓　第 1 回＞
私にとっての沖積低地研究
―濃尾平野を中心に（羽佐田紘大）

2017 年 4 月に法政大学の一員となって，早いもので 4 年半が経とうとしています。しかし，3 年目の終わり頃（2020 年春）から，新型コロナウイルスに翻弄された生活となってしまったこともあり，大学教員生活 5 年目という実感がわかないのが正直なところです。法政大学地理学会では，編集委員として，『法政地理』投稿論文の査読・編集に携わっています。普段は，「地理実習（2）」「自然環境論」「地理学読図演習（1）（2）」等の授業を担当し，今年度は初めて学部の「現地研究」も任され，教育の大変さとやりがいを日々感じています。研究としては，濃尾平野や矢作川下流低地，多摩川低地といった沖積低地を対象に，ボーリング資・試料と地理情報システム（GIS）を用いて，沖積層の 3 次元構造の復原，低地での土砂堆積・炭素蓄積の定量的評価，後背地（流域）の長期的な侵食速度の推定を行ってきました。また，沖積低地研究の一環として，ミクロネシア連邦ポンペイ島や沖縄県西表島のマングローブに関する研究にも取り組んできました。今回は，自身の研究のうち，これまで最も時間を割いてきた濃尾平野での研究を中心に紹介したいと思います。

濃尾平野は，主に木曽三川（木曽川，長良川，揖斐川）によって形成された沖積低地です。私自身，濃尾平野（なかでも伊勢湾岸の干拓地）

で生まれ育ったため，地元がどういった場所なのかという興味は昔からあったものの，実際に研究対象とするのは大学院に進学してからのことでした（卒業論文では矢作川下流低地の土砂堆積・炭素蓄積について研究）。当時を振り返ってみると，関心事を追究するための一地域として濃尾平野を選定したというよりは，その大学院に進学して沖積低地研究に携わっていくのであれば，諸先輩方に倣って濃尾平野を対象とすべきと勝手に意識していたように思います。確かに，すでに研究されている地域であれば，ほかを対象とした方がよいのではという考えもあります。しかし，多くの研究者が対象としてきた地域であっても，研究がやり尽くされることはなく，調査方法の発展や関連分野の進展に伴って新たな課題がみえてくるものです。

ここで日本の沖積低地研究についてまとめてみます。1923 年関東大震災の復興事業（復興局建築部（1929）『東京及横浜地質調査報告』）によって低地下の埋没地形や沖積層層序の理解が進み，1950 年代には，公共工事などに伴うボーリング調査で得られた資料（柱状図など）や試料（堆積物）を用いた研究が盛んに行われるようになりました。1970 年代末に加速器質量分析（AMS）法を用いた放射性炭素（^{14}C）年代測定が開発されてからは，堆積物中の貝殻片や植物片を用いた ^{14}C 年代測定によって堆積年代を推定することが一般化され，1990 年代以降は，オールコア堆積物の解析・分析を基に，地形・地層の形成や堆積環境の変遷を 1000～数百年という時間分解能で明らかにすることが主流になっていきました。2000 年代に入ると，オールコア堆積物の研究成果に基づいて既存ボーリング柱状図を再解釈するとともに，1990 年代から普及し始めた GIS を活用するによって，沖積層やその基底面の空間分布が復原されるようになりました。

卒業論文では，矢作川下流低地を対象として，沖積層の空間分布のみならず，これまでの沖積低地研究にはなかった ^{14}C 年代値を基に時代ごとの標高分布を復原することも試み，良好な結果が得られていました（羽佐田・藤本（2012）地形 33: 25-43）。そのため，新たな対象地域である濃尾平野でも同じ方法を適用できるのではないかと考えていました。ところが，対象地域の規模が異なる分（濃尾平野の対象範囲面積は矢作川下流低地のそれの 7 倍以上），扱うデータ量が桁違いで，はっきり言って気力・体力勝負となりました。

この研究は，既存ボーリング柱状図を収集することから始まります。国地盤情報検索サイト KuniJiban（国土交通省・土木研究所・港湾空港技術研究所）でデジタルデータとして公開されているものもありますが，地盤図や地質調査報告書（つまり，紙媒体）としてまとめられているものも多く，特に地質調査報告書は公共事業の際に作成されるため，市役所等に出向かなければ確認することができません。必然的に濃尾平野を車で走り回ることになりました（東京と違って車社会のため，学生であっても多くは車持ち）。柱状図を PC 上で一括管理するためには，紙媒体の柱状図をボーリング柱状図入力システム（産業技術総合研究所）でデジタルデータに変換する必要があり，これが根気のいる作業でした。例えば，ボーリング地点の緯度経度を入力する際，柱状図付属の紙地図上に〇で示されているだけであったり，日本測地系に基づくものであったりするため，当時国土地理院が運営していた地図閲覧サービス ウォッちず（現在の地理院地図に相当）で緯度経度をその都度確認しました。併せて，土質区分や N 値（地盤の強度を表す数値）といった諸情報も打ち込んでいくという単純作業の繰り返しです。最終的に約 4500 本（後述の羽佐田（2015）では追加調査を含めて合計約 4800 本）の柱状図を得ることができましたが，これはあくまでもデータの整理を終えただけでしかありません。これら柱状図をすべて閲覧して地層を区分し，データベース化することで，GIS を用いた空間解析が可能になります。柱状図を解釈してその結果を整理するという作業もまた単純なものですが，これを繰り返すことで柱状図から地層の累重様式やかつての堆積環境を把握する力が確実に養われていきました。ちなみに，これまでみてきた柱状図の数は，多摩川低地などを含めると 10000 本を超えており，若手研究者の中ではかなり多い部類に入るのではと自負しています。柱状図と並行して，既存の ^{14}C 年代値を整理する必要がありましたが，濃尾平野ではオールコア堆積物を用いた研究が盛んに行われてきた

ことが功を奏し，300 点以上の年代値を得ることができました。結局のところ，GIS を用いた空間解析には大量のデータが必要であり，既存データが豊富な濃尾平野は非常に適した地域であったというわけです。当時の成果を再構成した論文（羽佐田（2015）地理学評論 88: 118-137）は，自身の研究活動を代表するものの一つになっています。

もちろんこれまで着目されてこなかった地域や事象に焦点を当てることも重要ですが，一見研究し尽くされたような地域であっても，丁寧に先行研究を整理すれば，必ず課題がみえてきます。そもそも先行研究をレビューしないと，どこの地域が対象とされてきたかを把握することもできません。たとえ定番の地域でも，自分だけのデータを得ることができれば，それは新たな研究の始まりといえるでしょう。学生のみなさんには，課題をみつけるため，データを得るための労力を惜しまないことを心掛けてもらえればと思います。

法政大学地理学会「地理学研究奨励金」制度について

学会では，創立 70 周年を記念し「地理学研究奨励金」を設けています。

１　審査対象になる論文は，本学学生会員および大学院生が投稿し「法政地理」に掲載された論文です。
２　学士論文，修士論文をベースにした場合，学位論文を提出した翌年度までの「法政地理」に投稿・掲載された論文が対象です。
３　来年３月に発行予定の「法政地理５４号」に投稿・掲載される論文が対象になります。
４　論文が審査対象になるためには，地理学研究奨励金授与選考委員会に応募が必要です。
５　「法政地理 ５４号」に論文が掲載される予定の論説，研究ノートの執筆者は，ぜひ審査にご応募ください。

問い合わせ，連絡先
地理学研究奨励金授与選考委員会委員長
大塚一雄　　kotsuka415@gmail.com

会計委員会より

会費を滞納されている方にお知らせ致します。本会は２年以上滞納されたら納付の督促を行い，３年以上滞納されたら会誌等の発送を停止しております。また滞納期間が５年に達しますと，自動的に除籍する対応を取っております。会員各位におかれましては，住所変更等で学会からの連絡が届かず，結果として会費滞納状態になっている方もいらっしゃると思います。住所変更等がありましたら，かならず学会にお知らせいただきますようお願い致します。また，卒業後，学生会員は一般会員となります。卒業された学生会員はメール等でお知らせ下さい。メールアドレスの登録を推進しております。学会ホームページより学会メールを利用してお知らせください。

<<会員動向>>
会員動向（2021.5.15～2021.9.21 まで。敬称略，申し込み順）
【入会】
・[一般] 松本　昭大（埼玉），小島　梨紗（東京），牧　侑汰（千葉）
【退会】
なし

2021 年 9 月 30 日発行
編集　法政大学地理学会庶務委員会
発行　法政大学地理学会常任委員会
〒102-8160
東京都千代田区富士見２－17－1
法政大学文学部地理学教室内
Fax　　03-3264-9459
E-mail　hoseichiri@chiri.info
Web　http://www.chiri.info/index.html
郵便振替　00170-9-167442